

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書

平成31年3月7日

諏訪地域振興局

提出区分		実績				
整理番号		12	課題区分		B	
実施機関		諏訪地域振興局(農地整備課)			担当課	所属 農地整備課
事業名		農業水利施設の観光利用促進事業			電話	0266-57-2914
					E-mail	suwachi-nochi@pref.nagano.lg.jp
事業概要	目的 (目指す姿)	将来的に水利施設管理者等が主体となつて行う、農業水利施設を活用した「観光体験プログラム」をモデルツアーとして開催し、ツアーに合わせてガイド役としての「水の語り部」の養成を行う。農村の多面的機能の理解促進や都市と農村の交流機会の拡大、信州農産物の購入のきっかけとし、農業・農村の活性化に結び付けたい。				
	現状と課題	農業水利施設はその歴史や景観、多面的機能から観光資源としての要素を持っており、第3期食・農計画において農業水利施設の観光利用が位置付けられたが、始まったばかりで水利施設管理者が主体となつて観光利用を進めるのは手探りの部分が多い。また、水利施設管理者の高齢化から開設の歴史や維持管理の苦勞を知る者が少なくなつてきている。諏訪地域としては八ヶ岳西麓の観光のあり方が課題となつており、「学び」、「健康」、「食」といった新たな観光資源として農業水利施設がどの程度魅力があるのか検証が必要である。				
	内容 (変更後の内容)	「農業資産を巡る旅」として農業水利施設を中心としたモデルツアーを開催する。ちの観光まちづくり推進機構の情報発信力を活用し、募集範囲を県外や外国人にも広げ、ツアーのルートも八ヶ岳西麓全域に広げ、「水」を題材とした「学び」、「健康」、「食」を考えるツアーを企画し、観光資源としての可能性を探る。 募集やツアー時に活用するパンフレットを昨年度作成した物にビューポイント等の観光要素を追記して増刷する。 ツアーのガイド役として水利施設管理者である土地改良区の役員と若手を配置し「水の語り部」を養成する。				
	事業期間	平成30年10月		～	平成31年3月	
	成果目標 (成果指標)	農業水利施設が観光資源として位置付けられるか可能性を探り、八ヶ岳西麓の広域観光ルートに新たなバリエーションを付加する。 「水の語り部」を養成し、今後実施される観光ツアーの円滑な実施が図られる。				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容		計画(実績)額	備考	
	モデルツアーの開催	モデルツアーの開催・「水の語り部」養成		122,520		
	パンフレット印刷	パンフレット修正、増刷		99,360		
合計				221,880		
事業実績・成果	事業実績		事業の成果		評価	
	<ul style="list-style-type: none"> ・3月2日に農業水利施設の観光資源としての可能性を探ると共に「水の語り部」を養成することを目的として、モデルツアーを実施。 ・諏訪地域で観光業に携わる方、大学で観光を専攻する大学生等14名の参加があった。 ・「水の語り部」をちの観光まちづくり推進機構の担当者が行い、土地改良区の役員がシナリオの監修や当日の助言を行った。 ・昨年作成したパンフレットに観光資源やランドマーク等追記し、増刷を行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・観光地となっている蓼科湖や乙女滝等が農業水利施設であることや農業との関わりや開削からの歴史等を参加者に知っていた。 ・アンケートでは観光資源として概ね前向きな意見をいただき、改善点も含め両意見をツアー企画として今後の展開に活かしていく。 ・語り部として蓼科湖周辺の観光業を営む方が今後説明をしてみたいという意見があり、一定の成果があった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 期待以上 ● 期待どおり ○ やや下回る ○ 期待以下 	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ちの観光まちづくり推進機構で企画する「ちの旅」のメニューや農業水利施設の近くで観光業を営む方が自らオブショナルとして「せぎ」の魅力を発信していけるよう取組みを進める。 ・少人数の企画として、今後は外国人向けにも発信していく。 ・教育の場として地元小中学生に「せぎ」の大切さ、歴史などを学ぶ題材として位置付けていく。 					